

施肥

○過繁茂、倒伏を避けるため、品種ごとの施肥基準に従い、施肥をしましょう
 ○穂肥の適期は出穂の18日～10日（幼穂長1cm～8cm）10aあたり窒素量で3kgを目安に施用しましょう

| コシヒカリ | | | | | |
|-------|-----|-----|-----|----|----|
| 土壌 | 窒素 | | リン酸 | | 加里 |
| | 基肥 | 穂肥 | 基肥 | 基肥 | 穂肥 |
| 砂質 | 3~4 | 3~4 | 7~9 | 8 | 3 |
| 壤質 | 2~3 | 3 | | | |
| 粘質 | 2~3 | 3 | | | |

| ふさおとめ | | | | | |
|-------|-----|----|-----|----|----|
| 土壌 | 窒素 | | リン酸 | | 加里 |
| | 基肥 | 穂肥 | 基肥 | 基肥 | 穂肥 |
| 砂質 | 4~5 | 3 | 7~9 | 8 | 3 |
| 壤質 | 3~4 | 3 | | | |
| 粘質 | 3 | 3 | | | |

| ふさこがね | | | | | |
|-------|-----|-----|-----|----|----|
| 土壌 | 窒素 | | リン酸 | | 加里 |
| | 基肥 | 穂肥 | 基肥 | 基肥 | 穂肥 |
| 砂質 | 5~6 | 3~4 | 7~9 | 8 | 3 |
| 壤質 | 4~5 | 3 | | | |
| 粘質 | 4 | 3 | | | |

育苗・移植

種子消毒：ばか苗病やその他病害対策のために、種子消毒は用法・用量を守り確実に行う
 消毒液の温度は10～15℃とし、消毒液の使いまわしはしない
 苗立枯病等の防除のため、種子消毒、育苗用土等を行います
 栽植密度：55～60株/坪（株間18～20cm）とし、疎植にしない

中干し

○中干しを確実に実施することで、過繁茂を防ぎ、根張りをよくする効果があります
 ○土壌水分にムラが生じやすい場合は「溝切り」を行うことでムラが解消でき、中干し効果が高まります

品種別の中干し開始目標茎数

| 品種 | 播付時期 | 砂質 | 壤質 | 粘質 |
|-------|-------|-------------------|-------------------|-------------------|
| ふさおとめ | 4月20日 | 480本/㎡ (27本/株) | 480本/㎡ (27本/株) | 440本/㎡ (24本/株) |
| ふさこがね | 4月20日 | 360本/㎡ (20本/株) | 360本/㎡ (20本/株) | 360本/㎡ (20本/株) |
| コシヒカリ | 4月20日 | 320本/㎡ (18本/株) | 310本/㎡ (17本/株) | 300本/㎡ (16本/株) |
| | 5月1日 | | | |

収穫・乾燥・調製

○出穂期から収穫適期までの日数の目安は「ふさおとめ」で33日、「ふさこがね」で37日、「コシヒカリ」で38日
 ○高温による急速な乾燥や過乾燥等は胴割米を発生させ、品質・食味を低下させます
 乾燥は平均毎時乾減率0.7～0.8%で行い、仕上げ水分は14.5～15.0%とします

病虫害防除

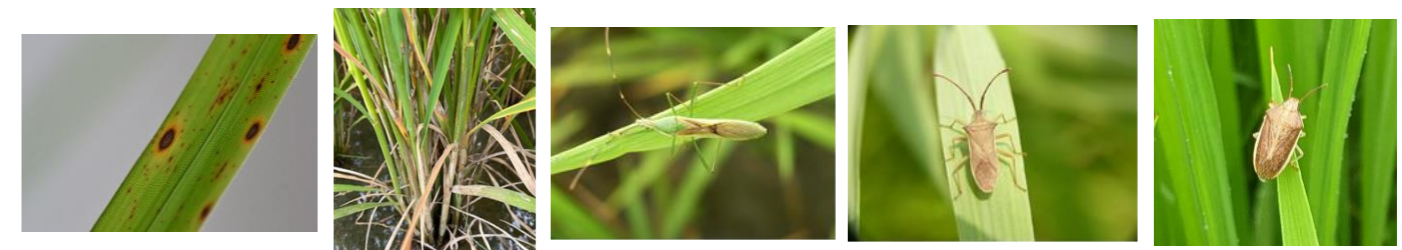
○薬剤の使用の際は、収穫時期を起点とし、使用期限の「収穫〇日前」を守って下さい
 ○いもち病、紋枯病、カメムシの散布適期は出穂期±7日以内
 ○予察情報と発生状況に注意し、収量や品質の低下や、周辺圃場に影響を及ぼす危険が予想されるため、適期の薬剤防除を行いましょう

環境にやさしい栽培技術（品種ごとに時期を分けて散布）

★デジタル生育予測判定技術（移植日、品種情報、気象メッシュ）による適期散布の実施
 →適期散布による化学農薬の使用量低減（散布回数1回に削減）

省力化栽培技術

★ドローンによる航空防除により、作業人員の削減
 ★ドローンの飛行ログにより、散布実績がデータ化できる



いもち病の病斑 紋枯病 クモヘリカメムシ ホソハリカメムシ イネカメムシ